

平成20年12月12日

## 韓国業界近況及びソウルバイクショー報告

2008年11月21～22日、韓国の自転車展示会ソウルバイクショーを参観するとともに、韓国自転車協会の金会長と面談し、韓国自転車業界の近況を聴取する機会を得たので報告する。

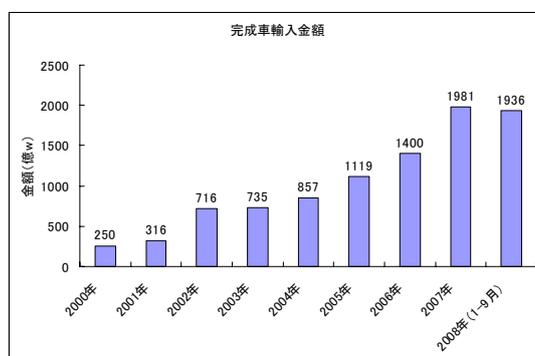
### 1. 韓国業界近況

#### <ブームひとまず終了>

韓国の国内需要は健康志向の高まりやレジャー需要などで1997年の通貨危機以降、自転車市場は順調に拡大してきた。協会発表によると国内需要を台数ベースで見た場合、1997年80万台から2007年は238万台まで約3倍に拡大し、また、完成車の輸入金額は2000年の250億ウォンから2007年には約8倍の1,981億ウォンに増加した。

特に昨年からはガソリン価格高騰の影響で自転車がブームとさえ呼べるようになり、今年の春から9月までは品不足が発生するほど好調だった。さらに自転車の販売増加に連れてウェア、ヘルメットなど関連商品の販売も大きく伸びていた。

しかし、今年の9月以降、通貨ウォンの急落により自転車の販売が急減速、ブームはひとまず終了という状況になっている。ウォン相場は昨年11月の1USD ≒900ウォンから今年11月現在は1USD ≒1,300～1,500ウォンとなり、完成車の小売価格が大幅に跳ね上がってしまったためである。金会長はこのまま行くと2008年の市場規模は2007年の約238万台から8.4%減の218万台に落ち込むと予測しており、今後更にウォン安が進めば自転車の輸入事業自体が完全に立ち行かなくなってしまうだろうと述べていた。



#### <企業別販売台数>

韓国ではアジア通貨危機以降、国内生産基盤は崩壊し、完成車メーカーは中国の

深圳や天津などの自社工場製品もしくは他社による OEM 製品を韓国に輸入している。中には中南米や日本などへ向けて輸出を行っているところもある。

下表は、韓国自転車協会推計による主要自転車企業の韓国国内での 2008 年の出荷実績と目標達成率(10月末時点)である。協会によると11月から気温が急速に低下するため、それ以降の出荷は翌年の春まで期待できず、この10月末時点の実績が通年のものと考えてよいとのことである。

(単位:台)

2008 年企業別出荷状況		
社名	台数(10月末時点)	目標達成率(%)
Samchuly(三千里)	900,000	95
ALTON SPORTS	210,000	85
COREX BIKES	210,000	85
DM SPORTS	50,000	—
Cantec	100,000	100
有名ブランド	100,000	110
その他	610,000	—
合計	2,180,000	92

大手の Samchuly、ALTON SPORTS、COREX BIKES は目標を5~15%下回る見込みである。Cantec は低価格車を中心とした、仁川(インチョン)地域で人気のある完成車メーカーであるが年間目標は達成している。

「有名ブランド」とは GIANT、TREK、Specialized、Cannondale、Scott、Merida などのことであり、製品の殆どは台湾製の OEM、販売は好調で 2008 年モデルは既に終了した。

「その他」は 10 万ウォン以下の低価格車や折畳車などであるが、折畳車は小売店での組み立てが必要ないのでインターネットショップを通じた販売が好調で 2007 年の 5 万台から 2008 年は 10 万台に増加した。(サドルバッグや速度計などのグッズ類もネットショップでの人気商品となっている模様)

国内需要の車種別構成は昨年と同じで、MTB(類型車含む)が 70%、折畳車 20%、軽快車 8%、子供車などが 2%である。

高価格帯(50 万ウォン以上)は主に台湾から、中・低価格帯は中国からの輸入である。

部品メーカーも完成車メーカー同様、アジア通貨危機以前は 40 以上あったと言われているが壊滅し、現在市場に流通している製品は日本など海外からの輸入品である。

高級マウンテンバイクなどの需要が増えていることから、日本製の付加価値の高い部品、アクセサリ類の輸入が大きく増加しており、朝鮮日報(2008年7月26日)も韓国貿易協会の発表として日本産の自転車部品輸入額が2002年2億9397万円から2007年は6億772万円と倍増したと伝えている。

車種別シェア	
車種	シェア
MTB及びその類型車	70%
折畳車	20%
軽快車、ロードバイク(*)	8%
その他	2%
合計	100%
(*:ロードバイクは0.001%)	

#### <利用促進に向けた取り組み>

MTBレース大会は2007年の30大会から40大会に増加し、現在競技が盛んになりつつある。自治体間で自転車大会の内容や規模を巡って一種の競争のようなことが起きているほどだという。

韓国政府も2009年から「気候変動対応総合基本計画」の一環として自転車利用を活性化するため、フランスのレンタサイクルの「ベリブ」をモデルにして地方自治体や公共機関による共有・レンタル制度を支援する。自治体の中では首都ソウル市が現在最も利用促進に熱心なようで、市民が自転車通勤できるようにと2012年までに207キロの自転車専用道の整備や駐輪スペースの整備などを計画している。このほか全国で多数の様々な利用促進策が実施中、又は実施予定である。

展示会の主催団体である韓国自転車協会は、より多くの児童が自転車に親しめるようにと2007年から入場料収入で自転車を購入、児童に贈呈する活動を行っており、2007年は300台を贈呈した。今年も継続する予定である。

生産基盤が壊滅してしまったこともあり、韓国の自転車業界に関する情報は日本には殆ど入って来ていないのが現状だが、例えば上記のように韓国では実は、意欲的な利用促進に向けた取り組みがなされていたということである。

## 2. ソウルバイク展

### <データ>

展覧会名: 2009 ソウルバイクショー  
会 期: 2008年11月21日(金)～23日(日)  
場 所: COEX ワールドトレードセンター アトランティックホール  
主 催: 韓国自転車協会  
展示面積: 7,776 平方メートル  
出展企業数: 約 65 社  
参観者数: 20,469 人(前年比 48.3%増) (事務局発表数値)

参観者数等の推移					
年	入場料(ウォン)	参観者数(人)	入場料総額(ウォン)	対前年比(%)	使用会場
2008	2,000	20,469	409,380,000	48.33	COEX World Trade Center
2007	2,000	13,800	27,600,000	287.50	COEX World Trade Center
2006	1,000	9,600	9,600,000	102.56	aT Center
2005	1,000	9,360	9,360,000	100.00	aT Center

### <概 況>

6 回目となる韓国最大の自転車展示会ソウルバイクショーがソウル市中心部にある COEX ワールドトレードセンターで開催された。展示会はそのトレードセンターの2階ホールで開催され、回を重ねるごとに展示会として内容が充実し、今年の参観者数は2005年の約 2.2 倍の2万469人となった。

バイヤー、一般消費者の区別なく入場可能になっており、2009 年モデルが展示された会場には 10-30 歳代の若者に混じってスーツ姿の会社員やサイクリングウェアに身を包んだグループの姿を見ることができ、特に 30-50 歳代の女性が比較的多く、韓国の自転車愛好者の広がりを感じた。来場者の方も展示ブランド数が 560 もあり周到に準備され管理の行き届いた自転車の展示会が自国で開催されていることにいささか驚いているようだった。



三千里自転車



会場となったCOEX World Trade Center

韓国には自転車に関する企業(商社)が114社(昨年100社)あると言われているが、出展企業は2005年が43社、2007年70社、今回2008年が65社なので、大体出展すべきところは出展したという感があり、来年以降もこの数を大きく越えて伸びることはあまり期待できない。(企業が増えたのはブームに後押しされ、趣味が高じて愛好者が会社を立ち上げているからである)

この展示会は基本的に Specialized、GT、Cannondale、Bianchi、Campagnolo などの欧米の有名ブランドを韓国の商社が出展する展示会である。韓国最大手の三千里自転車は入り口のすぐそばの目に付きやすい場所に最大面積のブースを設置、CELLO、SAMCHULY、BLACKCAT、GTブランドのMTBを中心にCOLNAGOブランドのロードバイクを展示したほか、各種パーツ、シューズ、ウェア等を展示していた。

日系メーカーでは、SHIMANO、CATEYE、OGK、Panaraser、MINOURA の製品が現地代理店によって出展されていた。特に SHIMANO は現地代理店と協力して出展、今年は小間の位置が会場の中心部に移りロードバイク用の部品を強調した展示で多くの参観者を集め韓国での存在の大きさを感じさせていた。拡大を続けてきた市場の主体は MTB(類型車含む)なので同社の MTB 用コンポーネント部品の需要は大きく、業界関係者も韓国の市場拡大に果たした役割は大きいと話していた。

ヤマハの PAS が今回初めて展示されていた。ウォン安のため1台の小売価格が昨年末の100万ウォン台から今年は200万ウォン台に上昇し、通貨安の影響は相当大きいものと思われる。

MKS、NITTO ブランドも見受けられたが、両社は既に10年以上前から韓国競輪向けに製品が供給しており、この展示会を通じ更に一般客向けに市場拡大を図ったものようであった。

この国では自転車に乗るときは必ずヘルメットを被りウェアを着用し専用シューズを履くなど、自転車に乗るには先ず外見を整えることを重視し、さらに速度計など周辺アクセサリーにも関心があるのが特徴だそうなので、会場ではそういう商品の展示にも多くの注目が集まっていた。

## <所感>

アジア通貨危機以降順調に拡大してきた韓国の自転車市場は、通貨ウォン安の影響で大打撃を受けており、ある企業の担当者は2009年の販売計画すら立てられない状態だと話していた。しかし、昨年あたりから政府や自治体は自転車利用促進に向けた様々な施策を打ち出しており、例えば自転車専用道は最終的には全国に6万キロも整備される計画だということである。今後の経済状況次第だが、それらがうまく実行されれば、最近までのブームは終了したのではなく、小休止ということになり、再び需要が持ち直す日が来る可能性があるのではないかと感じられた。その中で日系ブラン

ドに対する消費者の需要が高まることを期待したい。



発光ダイオードが埋め込まれたシートポスト



ウェアに身を包み愛車で来場したグループ

上海事務所



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです